

地域と医療で咲くコミュニケーション

あまが咲

2019

2月

No.57



兵庫県立尼崎総合医療センター

Amagasaki General Medical Center (AGMC)

だより

[診療科紹介] **整形外科**

[部門紹介] **リハビリテーション部**



サイボーグ型ロボットスーツHAL®
医療用下肢タイプ

[AGMC委員会・部会めぐり] 院内感染対策委員会

● [AGMCニュース] 栄養管理部新たな試み

～体験型糖尿病料理教室を開催しています～

● セミナーのご案内

● スタッフのつぶやき

● ぶらり〜っと病院探訪

整形外科

運動器の事なら何でも お任せください。 骨・関節・脊椎に幅広く対応します。

高齢化が進むと骨・関節・脊椎の外傷、疾患が増加します。骨粗鬆症に伴う大腿骨近位部骨折や脊椎骨折は寝たきりの原因になります。腰部脊柱管狭窄症や膝・股関節の変形性関節症は歩行障害の原因になります。これらの外傷や疾患の治療を行うのが我々整形外科です。救急外傷には迅速に対応し、慢性疾患にも幅広く対応します。

整形外科 科長

和田山 文一郎

- 京都大学医学博士
- 日本整形外科学会専門医・脊椎脊髄病医・リウマチ医・リハビリテーション医・スポーツ医
- 日本脊椎脊髄病学会外科指導医
- 日本リウマチ学会専門医
- 日本骨粗鬆症学会専門医



組織構成

整形外科医師 11名



整形外科スタッフ 集合写真

提供する活動内容

● 外 来 / 月から金(2診体制)

スタッフには得意分野がありますので、ホームページでお調べの上曜日を決めてお越し頂くとスムーズです。掛かり付け医からの紹介状があると円滑に診療が進みます。

● 救 急

時間外は24時間体制で整形外科医が必ず当直業務を行っています。緊急手術にも対応しています。

● 手 術

年間1500例余りの手術を行っています。骨折手術、脊椎手術、肩や膝の関節鏡手術、人工関節手術など整形外科分野のほぼ全ての領域をカバーしています。

患者さんや地域医療機関へのメッセージ

当センターは待機手術の入院待ち日数がそれ程多くありません。なるべく早い手術を希望される方はお気軽にご相談ください。



部門紹介 リハビリ テーション部

集中治療室から早期離床を!!

入院後直後より、リハビリの必要性を判断し、リスク管理を行いながら治療の妨げとなる合併症を予防し早期離床を図り、早期自宅退院(必要あれば転院)を目指しています。特に集中治療室における専門スタッフの配置を強化し、急性期リハビリテーションの充実に努めています。

●組織構成

理学療法士 26名、作業療法士 5名
言語聴覚士 8名、音楽療法士 2名
健康運動指導士 2名
医師事務作業補助者 1名 の豊富な
スタッフで日々診療業務を
行っています。



リハビリテーション科 科長 野口 隆



リハビリテーション部 技師長 山田 典夫

●兵庫県立病院リハビリテーション部門 統括責任者



集中治療部門スタッフ

ブルーユニフォーム: 特定集中治療室担当
グレーユニフォーム: 救急集中治療室担当

●提供する活動内容

リハビリテーション部の施設基準は以下の通りです。

- 脳血管疾患リハビリテーション(I) ●運動器リハビリテーション(I)
 - 心大血管疾患リハビリテーション(I)
 - 廃用症候群リハビリテーション(I) ●がん患者リハビリテーション
- あらゆる疾患に対応するために医師、看護師と連携を図り、カンファレンスや回診に参加しています。また先進医療であるロボットスーツを取り入れており、神経難病患者の活動能力維持・向上に努めております。

●患者さんや地域医療機関へのメッセージ

近年、リハビリテーション対象疾患は多種多様化していますが、当センターは医師、看護師、コメディカルのチーム力で日々診療業務を行っております。また一部ではありますが、土曜、日曜、祝日もリハビリテーションを実施しています。

適切な運営および安全な医療提供を行うために、
多職種で運営されている院内委員会・部会です。

院内感染 対策委員会



尼崎総合医療センター
病院長
平家 俊男

副院長
感染対策委員長
牧 淳彦

安全・安心な医療を 受けていただくために

委員会の紹介・特徴

“院内感染”という言葉が世に広まってきたのは1980年代。以後、世界中で感染対策の取り組みがなされてきました。当センターにおいても、この委員会で院内感染防止のための方策を企画・立案し、実働部隊であるICT部会(感染制御チーム)・AST部会(抗菌薬適正使用支援チーム)の活動を通じて実現していく体制をとっています。



院内感染対策委員会メンバー

《構成メンバー》

病院全体にかかわる問題を扱いますので、病院長を筆頭に看護、検査、薬剤、放射線、栄養、総務、医事などの部門の代表者や、感染症に関連の深い診療科の医師、病棟看護師など26名で構成されています。



院内講習会風景

活動内容、取り組み、目標、開催状況など

毎月一度の定例の委員会では、院内の耐性菌等の検出状況や届け出を要する感染症の発生数、ICT部会の活動内容などが報告され、院内での感染が広がっていないかを監視し、必要時にはICT部会に調査や介入を指示します。定例の委員会以外に、職員教育のための研修会を開催しており、これには全職員が参加するようになっています。

患者さんや地域医療機関へのメッセージ

院内感染を小さな芽のうちに発見し拡大しないためには、日頃からの手洗いやマスクなどの基本的な手技が重要です。これからも地道な取り組みを続けてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

AGMC
ニュース



栄養管理部新たな試み ～体験型糖尿病料理教室を 開催しています～

栄養管理部

11月号の「あまが咲だより」でもご紹介しましたが、栄養管理部では今年度、新たな試みとして年3回の体験型糖尿病料理教室を開催しており、12月22日金曜日に第2回目の教室を開催しました。

第2回目のテーマは「年末年始の食べ過ぎを防ぐ!～お正月の食材を活用した簡単レシピ～」で、参加いただいた8名の中には第1回目からのリピーターも数名おられ、賑やかな教室となりました。メニューは「ぶりの和風アクアパッツア」、「お煮染めde焼コロッケ」、「なますの中華風サラダ」、「舞茸の豆乳汁」、「栗さんんとリンゴの餃子パイ」の5品でしたが、そのうち「ぶりの和風アクアパッツア」のデモを患者さんの目の前で行いました。ぶりの脂とオリーブ油・ニンニク・トマトがうまく絡み合い、より風味深い味わいとなりました。その他にもいつも

のおせち料理とはちょっと違うアレンジレシピを体験していただき、患者さんからは参考になったとのこと意見を頂きました。次回の開催は、3月15日金曜日です。テーマは「お花見に持って行きたい!簡単お弁当レシピ」。普段なかなか患者さんに出会う機会が少ない調理師ですが、今は教室で直接患者さんとお会いすることで直接患者さんの反応を見ることができると、調理師にとって大きなやりがいとなっています。今後もワーキング会議を開き、お花見弁当のメニューについて皆さんに喜んでいただけるよう検討していきますので、ご興味のある患者さんは是非ご参加ください。

糖尿病の治療には、食事も重要な要素になっています。患者さんが食事を楽しみながら治療を進められるようサポートしていきたいと願っています。



第3回体験型糖尿病料理教室

テーマ「お花見に持って行きたい!簡単お弁当レシピ」

日時: 3月15日(金) 11:30~13:00

場所: 栄養指導室1・2(※2階外来24 小児科と眼科の間)

予約方法: 医師、看護師、管理栄養士などお近くのスタッフにお声かけください。ご家族の方も参加可能です。この教室では、食料700円(自費)をいただきます。別途、集団栄養食事指導料(保険適用)が必要です。

兵庫県立尼崎総合医療センター 栄養管理部

セミナーのご案内

先生のお話をきいて
音楽療法を
体験しませんか?



第21回 生活習慣病セミナー

多くの方
ご参加を!

テーマ 『からだの病気とうつ病』
～ストレスと上手に付き合う～

【講師】 県立尼崎総合医療センター
● 副院長兼精神科部長 見野 耕一 ● 音楽療法士 澤木 見佳

【日時】 平成31年3月19日(火曜日) 午後2時~4時(開場1時30分)

【場所】 県立尼崎総合医療センター 講堂(1階) 参加費: 無料(予約不要)

★お問い合わせ: 外来Bブロック(糖尿病・内分泌内科) 看護部 ☎ 06-6480-7000(代表)



スタッフの
つぶやき

チーム10西で患者さんの回復力アップ!!

10階西病棟看護師一同

10階西病棟は整形外科を主とする病棟です。疾患による痛みで活動が制限され、それらを改善する目的で入院される方がほとんどです。多くの患者さんは、手術後すぐに動けるようになると思いきや手術に臨まれますが、術後は傷の痛みで思うように動けず、介助での移動を余儀なくされるのが実態です。「手術をしたのに、もう一生動けなくなるかと思った」と言わ

れる患者さんも少なくありません。手術後は痛みのコントロールを積極的に行い、早期リハビリを開始し、患者さんがのぞむ理想の姿に少しでも早く近づけられるようサポートしています。日々の生活こそがリハビリ!と、時には熱血漢の鬼コーチとなり患者さんの回復力アップに向け関わらせて頂いています。患者さんに元気をもらい、笑顔で退院される姿を見届けることが私たち10西スタッフの喜びです。

ぶらり〜っと 病院探訪



心臓リハビリテーション室

今回は、センター2階の西端に位置する心リハ室(心臓リハビリテーション室)にお邪魔しました。「心臓のリハビリ…、どんなことをしてるんだろう…?」と思いつつの探訪です。心リハ室に入ると所狭しと並んだ運動器具が目に入ります。ここでは、心疾患等をお持ちの患者さんが、運動を通じて心肺機能を高めたり、筋肉を鍛えたりして、身体機能を高めることができるそうです。運動器具をよく見ると、普通のジムとは違って、心電図がついています。不整脈・血圧・脈拍等を確認しながら患者さんの身体状態にあった運動強度を設定できるとのことです。

また、運動器具だけではなく、体組成計という体重、体脂肪、骨格筋、水分量を測れる機械もあります。心臓のリハビリには、運動だけではなく、食事を含めた生活習慣が重要な要素になるので、患者さんの身体状況の変化を観察しながら個々に合わせたアドバイス等されているそうです。

「リハビリを安全に、患者さんが楽しみながらできること、そして、患者さんが今後どうしていきたいかをいつも考えています」という職員という言葉に、心強いなあ…と嬉しく思いました。



今月の表紙写真

サイボーグ型 ロボットスーツ HAL®の ご紹介



HAL® (Hybrid Assistive Limb)とは、世界初のサイボーグ型ロボット治療機器です。HAL®は神経や筋肉の難病疾患患者さんに対し、治療の有効性が確認されています。

HAL®は人が身体を動かす時に脳から筋肉に流れる微弱な神経信号を検出し、「意思」を読み取り動きをアシストします。これにより脳は“歩く”ために必要な信号の出し方を少しずつ学習することができます。動きに対する正解を脳に教えることのできる唯一のロボット、それがHAL®です。

編集後記

2月4日は「立春」です。「立春」と聞けば、春が確実に近づいて来た気がして、春が待ち遠しい気分になります。ところで、立春ってなんだっけ?! 1年を24つに分けた時、二十四節気のひとつとされていて、春が始まる第1日目なんです。春が始まる第1日目に、何か新しいことを初めてみるのも良いですね! まだまだ寒い日が続きますが残りの寒さを暖かく美味しいものを食べながら、春の訪れを待ちたい今日この頃です。(emo)



兵庫県立尼崎総合医療センター

Hyogo Prefectural Amagasaki General Medical Center (Hyogo AGMC)

〒660-8550 兵庫県尼崎市東難波町二丁目17番77号 TEL 06-6480-7000(病院代表) FAX 06-6480-7001

URL: <http://agmc.hyogo.jp/>

兵庫県立尼崎総合医療センター

検索